

赤い靴通信 399号

JAL(日本航空)の初代松尾社長のモットーは「臆病者と言われる勇氣を持つとう」でした。私も飛行機に関わりがあった者として、深く感銘し生涯の座右の銘としています。一瞬にして多くの命を無にしてしまうパイロットの心中は大胆な判断も必要ではあるけれど、時には臆病者と言われる氣持が大事です。同じような戒め言葉をシェクスピアの史劇に見付けました。ヘンリー四世、の中にあつた「A better part of valour is discretion」日本訳は「勇氣の大部分は分別だ」です。進むことを知って退くことを知らないような勇氣は、虎に素手で立ち向かったり、大河を歩いて渡ったりすることと同じと、中国の孔子が、子を戒める時の言葉として言っています。第2次大戦の英軍が行ったゲンケルクの撤退のような一兵も失わない退却は大きな勇氣なのであると言われてい

ます。私は先輩の多くを特攻隊として目の前で送りましたが、帰ってこない飛行機のパイロットはベテランでは無く操縦未熟の新人が多いと聞いて、残念でなりませんでした。日本の特攻隊の攻撃は自殺的攻撃と言われていて、残念です。さて、毎年、募集し、いつも賞に輝く横浜市民こどもミュージカルは、今年も大勢の応募がありました。コロナ禍の影響で公演が中止になりました。その不自由なおうち時間に「心に残った言葉」の課題を出したのですが、かなりの言葉が集まっています。9月13日(日)には横浜市開港記念会館で発表出来るように準備を進めています。

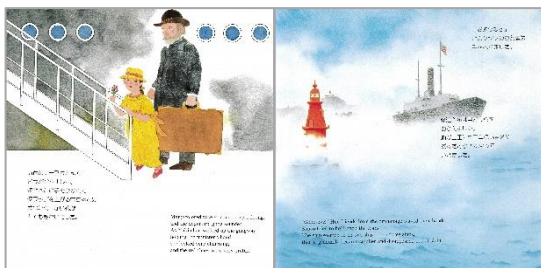
「私個人も名言・名句が好きですし、その言葉を題材として書にし「墨の魂」として何度か個展を開いたことがあります。きっかけはサクラメント州立大学に留学中でした。海外旅行自由化前のことでしたので、日本からの送金が出来なかつたのです。先生に相談すると、とにかく当面の資金を作ろうと私に「書」の展覧会を勧めたのです。書道は義務教育で習った程度ですし、和紙があるわけではなし、筆も墨もなかつたのですが、現地でロープをほどこいたりして筆を作りました。それが功を奏し前衛書と言われ、文字をあえて崩した不安定感と当時全世界で流行った「モノクロ」(白と黒)の世界が時勢にマッチして、初めての展覧会の作品は終了までに完売になりました。

帰国後は妙な自信が出来て、山下公園前の「ザ・ホテルヨコハマ」の地下に画廊もどきの場所を見つけ、何回か個展を開催しました。ドイツの方がその展覧会で16点を購入され、ベルリンにある娘さんの画廊に展示したところ、即日完売の朗報が届きました。

今年はコロナ状況下で横浜市から芸術活動支援の助成金が出ると言うことで、久しぶりに頑張つて個展を開いてみようかと思いましたが、申込書を書いているうちに越えられない条件にぶつかつて棄権しました。しかし間もなく自分の力で開催しようと思っております。

複製版ミニ絵本「赤い靴」(サイズ 14cm×13.5cm)
英訳付き ウィリアム・カリー(上智大学・第12代学長)
赤い靴記念文化事業団事務所でも扱っています。
赤い靴関係の方には 300 円で販売させていただきます。

←絵本最終の2ページ



タウンニュース
中区・西区版
令和2年6月25日(木)号
・トップニュース
「童謡 赤い靴
ミニ絵本で復刻」
・人物風土記
で松永団長が紹介されました。裏面へ。

今後のスケジュール

★8/21(金) 第14回東六忌 元町霧笛楼
★9/12(土) 第33期「赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会」 横浜市開港記念会館 赤い靴ジュニアコーラス/ATF・青隊・赤隊 横浜☆男声合唱団
★9/13(日) 朗読劇「ことばの贈りもの」仮称 横浜市開港記念会館 横浜市民こどもミュージカル2020メンバー
★9/21(月・祝) 中区ダンスフェスティバル2020 関内大ホール/入場料 600円 第1部 13時～、第2部 18時～
★10/9(金) 延期開催 横濱シネマパラダイス 懐かしいヨコハマの風景と流行の映画音楽 横浜みなとみらい大ホール 15時開演 新日本フィルハーモニー ナビゲーター 池辺晋一郎(作曲家) ドラマトゥルク 中村高寛(映画監督) ゲスト 松永 春 (赤い靴事業団・団長)
★10/17(土)・10/18(日) オペラ「トゥーランドット」 神奈川県民ホール・大ホール 出演：赤い靴ジュニアコーラス

2020・6・30 団長 松永 春

あるとき本屋さんで立ち読みしていた時、齋藤茂太先生の「いい人生はいい人を作る」という本に出会い、今でも身近に置いてあります。

・「人は感情を引きずりやすい」「いい感情を引きずって生きよう」

・「どうせ」と言う口ぐせを、「もしかしたら？」に変えてごらん。

・「成功しよう」とするより、「夢をかなえよう」とする方が楽しい」

・「幸福は好奇心から生まれる。」

・「出来るか、出来ないか」ではない。「望むか望まないか」なんだ。

書物の中には、学ぶべき人生訓も多く、失敗の時の戒め、成功の快哉など心に残る言葉が多いですね。

さて、「赤い靴通信」は来月で400号になります。33年間、毎月発行し続けた事になります。はじめは「団長の手紙」と言う表題で手書きでコピーしてお渡ししていましたが、ある日、あるジュニアコーラスの団員から「団長、活字にならないの、読みづらいよ」と言われました。パソコンがまだ無く、ワープロで打っていた頃です。手書き文字の方が心に伝わると思っていたのですが、その後、子ども達にも読みやすいように今の形になりました。最近、何人かの方から本にしたらと言われます。その場その時のエッセイです。ので、振り返ると面白いかもしれません。

そしてお願いですが、赤い靴通信400号を記念して、通信の読者の皆さんの言葉で来月号の裏面を埋めたいと思います。簡単な言葉でも結構です。また、ご意見、エッセイ、希望などお一人300字位で、お名前は書いて頂いて匿名でも構いません。メール・ファックス・郵便で上記事務局までお寄せください。締め切りは7月20日まで。楽しみにしています。

